

NEWS REPORT

中村秀仁氏が、財団法人内藤泰春科学技術振興財団 「内藤泰春記念賞」を最年少で受賞

中村秀仁氏(基盤技術センター 研究基盤技術部 放射線計測技術開発室)は、平成21年3月23日に、財団法人内藤泰春科学技術振興財団(理事長:鈴木幸壽氏、専務理事:鈴木啓祐氏、理事:矢野信太郎氏)より、第三回内藤泰春記念賞を受賞しました。同賞は、内藤泰春科学技術振興財団の事業内容の一つである科学技術に関する優れた業績を挙げた者に対して表彰と記念品を贈呈されるものです。平成20年度は、1名の顕彰者が決定されました。

(URL: <http://www.naito-zaidan.or.jp/>)



授賞式での記念写真(前列中央:鈴木幸壽理事長、後列左から3番目:鈴木啓祐専務理事、前列中央右:矢野信太郎理事、前列左端:中村秀仁氏)

受賞テーマは、「放射線源から放出される粒子を用いた高信頼度での放射線計測方法の確立」であり、平成20年12月1日に米国科学誌Radiation ResearchのRapid Communicationに掲載された論文が、卓越した業績として評価されたものです。放医研から世界へ向けて発信した研究が、このように高く評価され、受賞の機会を得たことは、非常に大きな榮譽であると思われます。

中村氏は、放射線源から放出される放射線のエネルギーや放射線量を厳密に計測する方法を開発し、従来法に比べ非常に精密な放射線計測器の校正を可能としました。さらに、この技術を導入した放射線計測器で、従来法より高い分解能での放射線測定が可能になりました。

以上の研究成果により、中村秀仁氏が第三回内藤泰春記念賞の受賞となりました。そこで、ご本人から、今後の展望と受賞のこぼを頂きました。

今後の展望

この放射線計測方法には、放射線の種類(アルファ線、ベータ線、ガンマ線、X線)やエネルギーの大きさ、放射線計測器の種類(半導体検出器や有機・無機シンチレータ、その他の放射線測定器に対しても有効)等に一切依存することなく使用出来るという優れた特徴があります。また、新たに何かを購入する必要もなく、既存の装置で精度を向上できるという魅力もあります。これらの特徴を活かし、今後行われる様々な放射線計測や、これまで行われてきた放射線計測の精度の更なる向上に貢献したいと考えております。

受賞のこぼ

近年の科学技術の著しい進化に伴い、数十年前には出来な思われていた事でも、現在では出来るようになってきました。「温故知新」という言葉もありますように、今一度、基礎研究の原点に振り返る事で、未開の領域を切り拓くことが出来るかもしれません。

最後になりましたが、財団法人内藤泰春科学技術振興財団の鈴木幸壽理事長をはじめ、鈴木啓祐専務理事、矢野信太郎理事、評議員の皆様には、このように名誉ある賞を頂いた事に、心より厚く御礼申し上げます。また、受賞に際して、大変お世話になりました寺田容子事務局長には、心より深く感謝申し上げます。誠に有難うございました。

基盤技術センター 研究基盤技術部 中村 秀仁

目次

◆ NEWS REPORT

- 中村秀仁氏が、財団法人内藤泰春科学技術振興財団「内藤泰春記念賞」を最年少で受賞 1
- IAEA/RCA地域トレーニングコース「Regional Training Course on Advanced Clinical Applications of PET」開催 2
- 国際オープンラボラトリー第4回ワークショップ "Cellular and Molecular Effects of Light Ions" 報告記 3

◆ Flash NEWS

- 肝移植における急性拒絶とその治療効果の画像診断に成功~PETによるがん診断のシステムで臓器移植の拒絶反応を診断:早期の臨床応用に期待~ 4

◆ 栄えある受賞

- 山田正俊氏が、第24回海洋化学学術賞(石橋賞)を受賞 5
- 渡邊直行氏が、放射線影響研究奨励賞を受賞 5
- 岡本裕之氏が、「日本医学物理学学会大会賞」を受賞 6
- 土橋卓氏が、「日本医学物理学学会大会賞」を受賞 6

◆ HIMAC REPORT

- HIMACシンクロトロン加速器の高度化~可変エネルギービーム取り出し~ 7

◆ Flash NEWS

- ユニット紹介 研究倫理管理支援ユニット 8